

廿日市市景況調査報告

(2024年4～6月)

～業況DIは、物価高に伴う消費低迷で、全業種で悪化。

先行きは、一層のコスト負担増継続で厳しい見方～

1. 全体の概要

業種別景況 概要	前年同期	4～6月と先行き見通し									
	全産業	全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	対前年比	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	25.6	▲15.4	▲10.0	▲9.1	▲18.2	▲20.0	33.3	▲27.3	▲54.5	▲8.3	16.7
仕入価格	77.8	68.4	57.9	72.7	63.6	83.3	83.3	81.8	72.7	40.0	20.0
採算	36.8	17.5	30.0	▲18.2	9.1	16.7	16.7	27.3	18.2	41.7	66.7
雇用人員	▲23.7	▲35.9	▲38.5	▲36.4	▲27.3	▲66.7	▲83.3	▲27.3	▲27.3	▲27.3	▲36.4
業況	10.3	▲20.0	▲10.0	▲36.4	▲9.1	0.0	16.7	▲9.1	▲36.4	▲25.0	0.0
前回調査	—	▲7.0	▲4.7	▲20.0	▲6.7	25.0	0.0	0.0	▲36.4	▲7.7	23.1

(対象 63社 回答 40社)

【全国の景況】

全産業合計の業況DIは、▲16.2（前月比▲4.8ポイント）。資源・原材料価格が高止まりする中、歴史的な円安基調や人材確保に向けた賃上げ、輸送費の上昇等の複合的な要因による企業のコスト負担増は業種を問わず継続している。とりわけ、建設業や卸売業では、働き方改革関連法による輸送費・労務費の上昇や需要の取りこぼしが見られたほか、製造業では企業の設備投資が力強さを欠き、需要が伸び悩んでいる。また、小売業やサービス業では、インバウンド需要は底堅いものの、物価高による消費者の購買意欲の低下が下押しした。継続する物価高による消費低迷により、全業種で業況は悪化となった。（全業種で業況DIが1.0ポイント以上悪化したのは、2022年9月以来）

【廿日市市の景況】

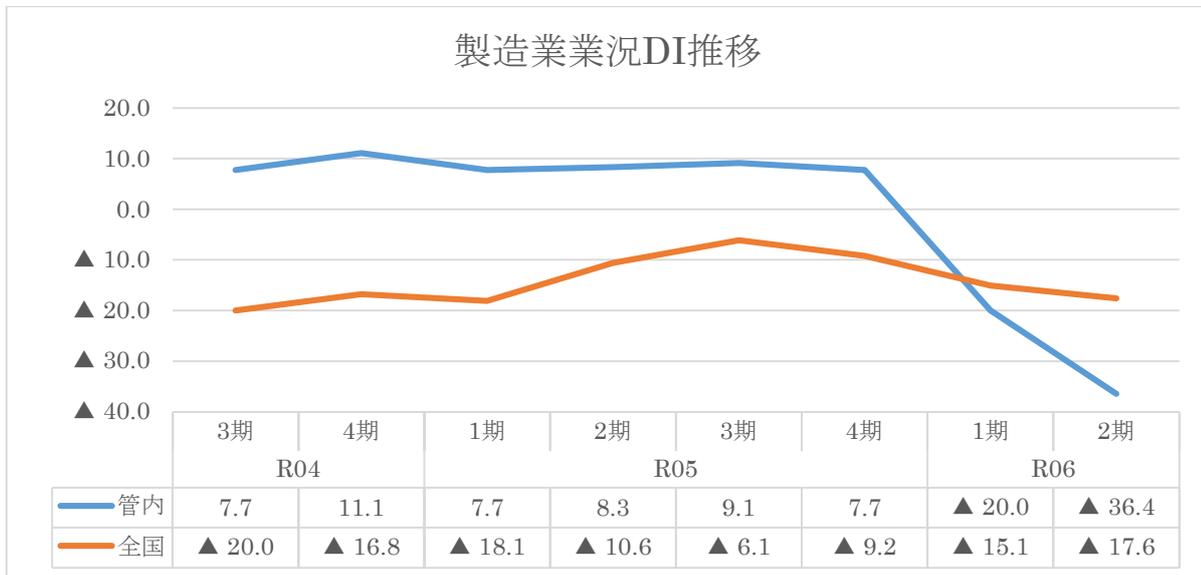
産業別の業況DIは、製造業が前回値（▲20.0）から今回値（▲36.4）、建設業が（25.0）から（0.0）、卸小売業が（0.0）から（▲9.1）、飲食・サービス業が（▲7.7）から（▲25.0）と、全産業合計の業況DIは▲20.0ポイントと前回調査（1～3月）から全業種で業況は悪化となった。

日本商工会議所における早期景気観測調査（全国ベース）においても全業種で業況は悪化しており、円安基調による原材料の高騰・物価高による消費低迷が業種を問わず継続している。価格転嫁については、一部企業では進捗が見られるが、度重なる物価上昇に追いついておらず、依然として厳しい状況がうかがえる。

人手不足による労務コストの上昇も継続しており、前回調査時の先行き見通しより、現況を厳しく評価する企業が多く見受けられた。

2. 業種別推移

【製造業】



第1表 業種別生産指数（付加価値額ウェイト）

年・期・月	鉱工業	製造工業	鉄鋼業	非鉄金属工業	金属製品工業	一般機械工業(総合)	はん用機械工業	生産用機械工業	業務用機械工業	電気機械工業(総合)	電気・情報通信機械工業	電子部品・デバイス工業	輸送機械工業	窯業・土石製品工業
ウェイト	10000.0	9998.1	600.3	148.8	276.0	1605.0	417.4	1069.0	118.6	1372.0	280.9	1091.1	3327.2	202.0
4月	96.9	96.9	77.8	72.5	85.5	108.4	246.9	79.4	92.5	182.4	76.1	209.4	76.6	71.2
5月	108.2	108.2	76.7	88.0	97.5	93.8	99.3	88.7	84.8	221.9	91.8	251.7	87.1	72.6
r 6月	90.0	90.0	77.7	80.6	86.0	73.4	62.2	80.4	90.7	152.5	88.3	169.6	75.1	68.2

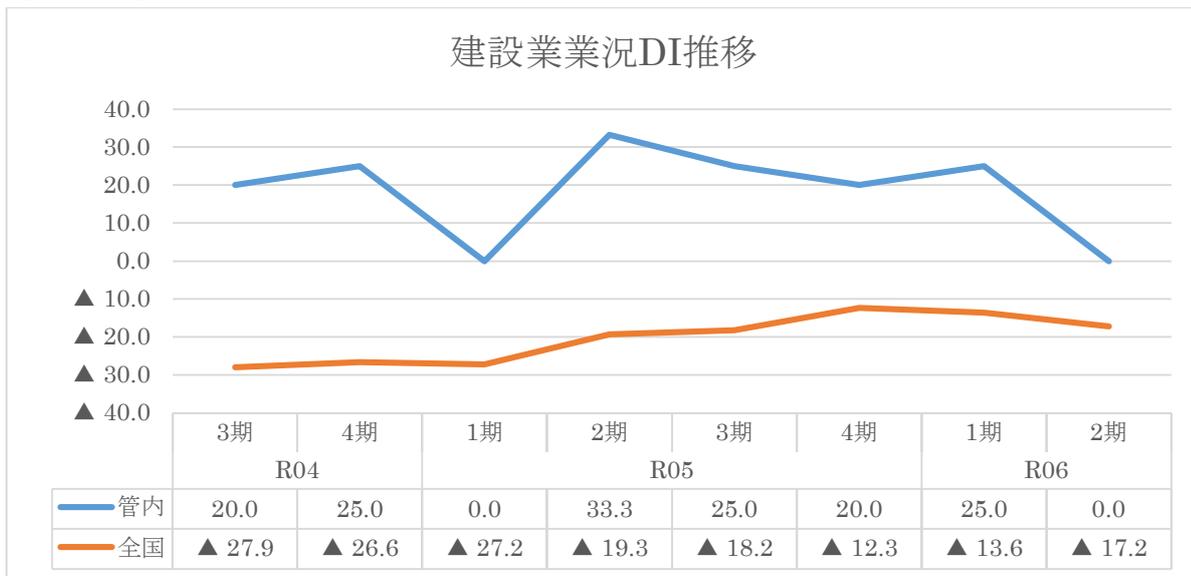
化学工業	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工品工業	繊維工業	食料品・たばこ工業	木材・木製品工業	ゴム製品工業	その他工業	家具工業	その他製品工業	鉱業	公益事業	産業総合	機械工業	自動車部門	造船部門
302.5	504.9	82.9	173.3	813.8	161.5	142.7	285.2	61.9	223.3	1.9	148.7	10148.7	6304.2	2605.0	761.3
80.9	100.1	88.7	74.1	73.7	100.3	81.6	76.5	60.7	81.8	85.1	69.9	96.5	106.7	83.4	47.6
91.5	114.0	120.5	72.9	82.9	114.7	115.4	80.0	70.7	82.9	78.1	79.0	107.9	119.6	97.7	47.9
95.3	98.3	82.2	76.4	78.6	117.5	105.4	75.5	60.4	79.9	88.8	83.6	89.8	93.1	81.9	44.0

《広島県鉱工業活動動向 業種別生産指数（季節調整済）》※広島県ホームページより

管内における業況は原材料の高騰、諸経費負担の増加などにより前期の▲20.0から▲36.4へと前期に引き続きさらに悪化、全国値も同様に前期の▲15.1から▲17.6と若干の悪化となった。

また先行指数である業種別生産指数においても、自動車部門、造船部門などは引き続き生産が悪化していることが読み取れる。

【建設業】



広島県 新設住宅着工戸数 (速報値) (令和6年6月分)														広島県土木建築局建築課	
														作成日 令和6年7月31日	
	合計	持家	貸家	給与	分譲	戸建	長屋建	共同建	木造	SRC	R C	鉄骨造	C B	その他	
県計	1,239	385	573	1	280	624	102	513	798	0	219	221	0	1	
廿日市市	53	27	9	0	17	44	0	9	49	0	0	4	0	0	

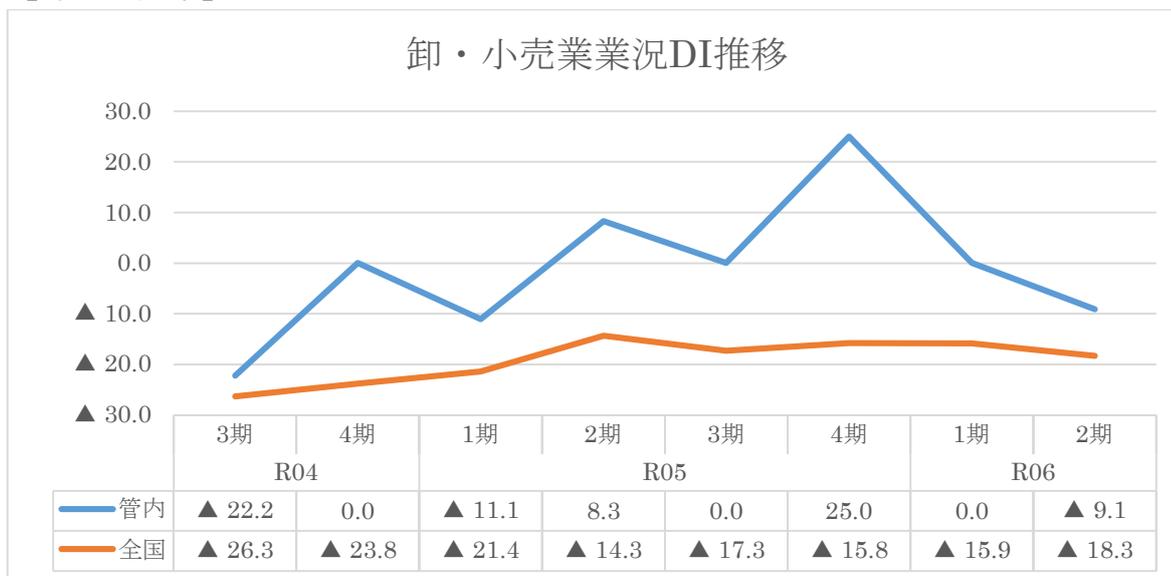
広島県 新設住宅着工戸数対前年比較表 (令和6年6月分)										
(単位：戸, %)										
	合計	対前年比	持家	対前年比	貸家	対前年比	給与	対前年比	分譲	対前年比
県計	1,239	-18.1	385	9.4	573	-16.1	1	-98.0	280	-34.6
廿日市市	53	-26.4	27	-3.6	9	-59.1	0	-	17	-22.7

管内の建設業の業況DIは前期の25.0から0.0と悪化、一方で全国値においても前期の▲13.6から▲17.2とこちらも悪化となっている。

先行指数である新設住宅着工件数をみると、廿日市市においては対前年比▲26.4と持家、貸家、分譲などすべてにおいて前年を下回っている。

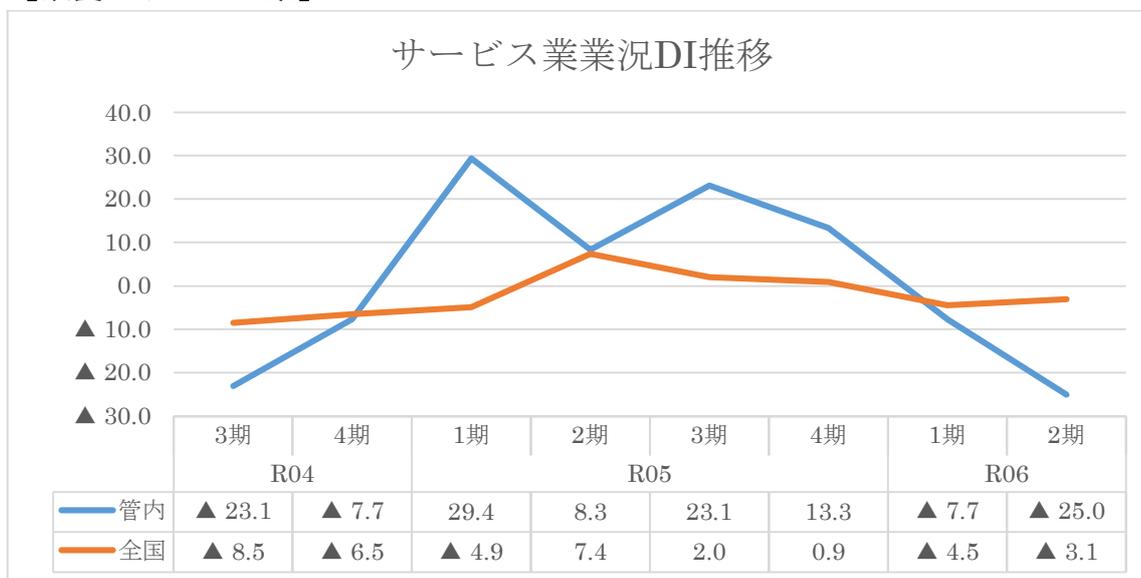
こちらも原材料高騰などが大きく影響しているものと思われる。

【卸・小売業】



管内の業況は引き続き前期の0.0から▲9.1と前期からさらに悪化となった。一方で、全国値でも前期の▲15.9から▲18.3とこちらも悪化となっている。

【飲食・サービス業】



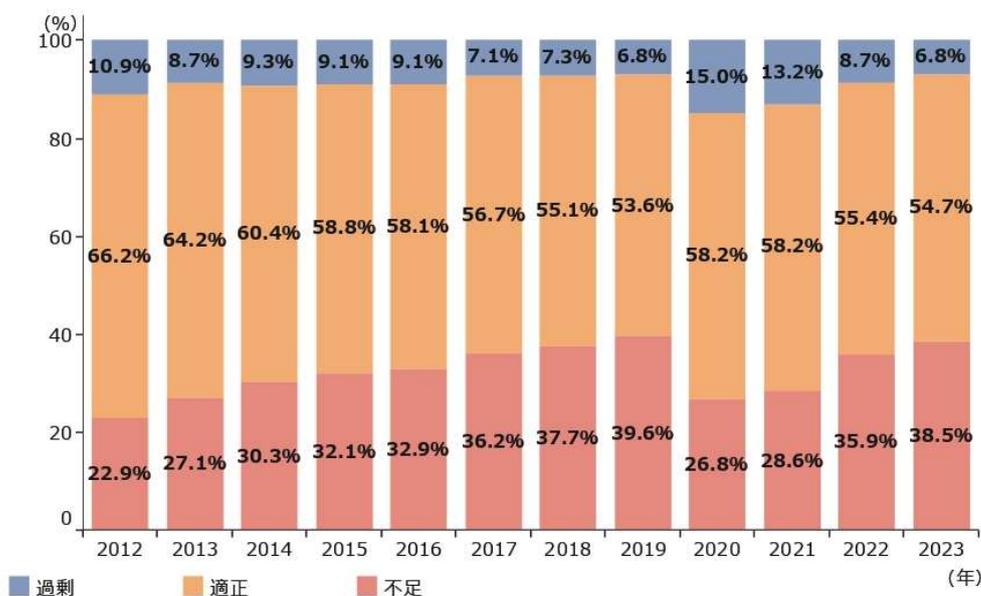
管内の業況は、前期▲7.7から▲25.0へと大きく悪化、全国値は▲4.5から▲3.1と横ばい状態である。一時の改善傾向から、物価高や人手不足などの影響を受け、厳しい状況が続いている。

3. 今月のトピック

(1) 小規模企業白書から見る人手不足の状況と人材育成の重要性

第2-1-33図は従業員20人未満（卸売業、小売業、飲食店・宿泊業は10人未満）の事業者における従業員の過不足感の推移を見たものである。これを見ると、感染症が拡大した2020年に不足感が一旦緩和されたものの、ここから足下の2023年にかけて従業員が「不足」していると回答した割合が高まっている。足下では事業者の人手不足感が強まっていることが読み取れる。

第2-1-33図 従業員の過不足感の推移



資料：(株)日本政策金融公庫総合研究所『小企業の雇用に関する調査』結果（全国中小企業動向調査（小企業編）2023年7～9月期特別調査）

(注) 1.ここでいう小企業とは、(株)日本政策金融公庫取引先のうち、原則として従業員20人未満の法人及び個人の事業者をいう。

2.各年とも全国中小企業動向調査（小企業編）7～9月期調査において尋ねているもの。

3.従業員はパート・アルバイト、派遣社員などを含む。

4.少数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

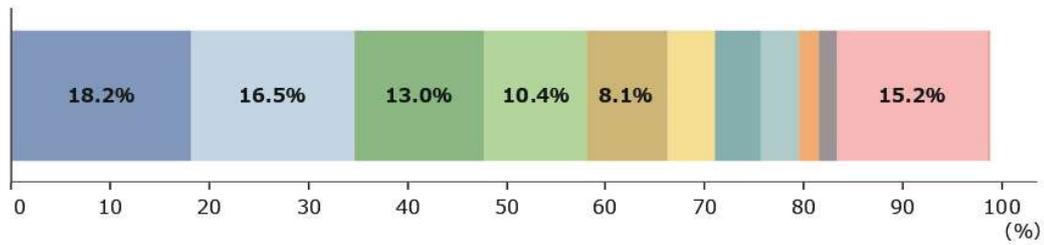
5.本調査の有効回答数は6,502企業、回答率は65.0%

第2-1-41図は、厚生労働省「令和2年転職者実態調査 個人調査」の調査結果を基に、現在の勤め先の事業所規模が5～29人である転職者について、現在の勤め先を選んだ一番の理由を見たものである。

これを見ると、「自分の技能・能力が活かせるから」と回答した割合が18.2%と最も高く、「仕事の内容・職種に満足がいくから」と続いている。また「労働条件（賃金以外）がよいから」も13.0%と他の理由と比較すると高い割合となっている。

中途採用の人材を獲得する上では、能力をいかせる業務内容や労働環境が重要であると考えられる。

第2-1-41図 現在の勤め先を選んだ一番の理由



- 自分の技能・能力が活かせるから
- 仕事の内容・職種に満足がいくから
- 労働条件（賃金以外）がよいから
- 転勤が少ない、通勤が便利だから
- 賃金が高いから
- 前の会社の紹介
- 地元だから（Uターンを含む）
- 会社に将来性があるから
- 会社の規模・知名度のため
- 安全や衛生等の職場環境がよいから
- その他
- 不明

資料：厚生労働省「令和2年転職者実態調査 個人調査」

（注）1.本調査は、令和2年10月1日現在の状況について、令和2年12月3日から令和3年1月27日までの間に実施したもの。

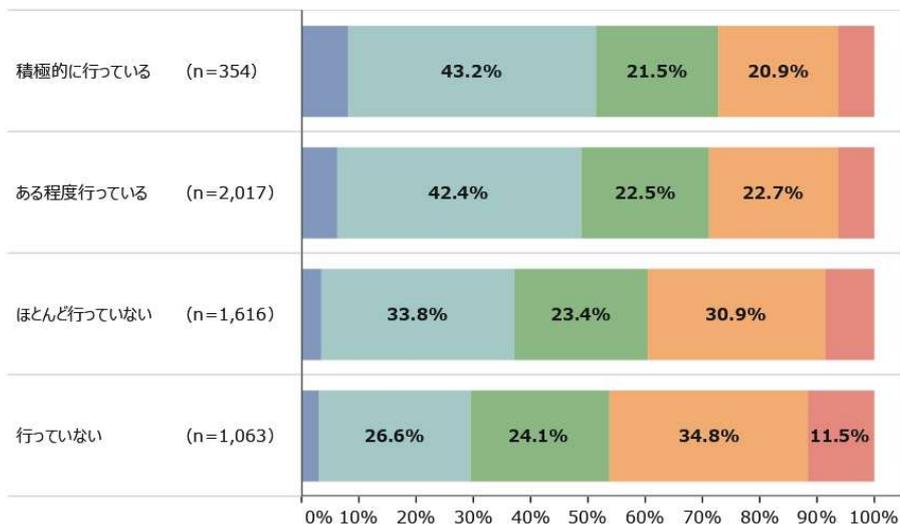
2.本調査の有効回答数は5,530人、有効回答率は55.9%。

3.表章単位未満の位で四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない。

4.現在の勤め先の事業所規模が5～29人である転職者の結果のみ示している。

第2-1-48図は、人材育成の取組状況別に、2023年の年間売上高見通しを見たものである。これを見ると、人材育成を積極的に行っている事業者ほど、2023年の売上高見通しが2019年と比較して「大幅に増加」、「増加」と回答する割合が高い傾向にあることが分かる。このことから、小規模事業者においても、売上高の増加に向けて人材育成に取り組むことは重要と考えられる。

第2-1-48図 2023年の年間売上高見通し（人材育成の取組状況別、2019年比）



- 大幅に増加
- 増加
- 不変
- 減少
- 大幅に減少

資料：EYストラテジー・アンド・コンサルティング（株）「小規模事業者の事業活動に関する調査」

（注）1.ここでの「年間売上高」とは、1月から12月にかけての売上高の合計を指す。

2.「2019年時点で事業を開始していない」と回答した事業者は除いている。

以上、2024年版小規模企業白書より抜粋

(2) 2023年ヒット商品ベスト5

～日経トレンドィによるヒット番付～

	商品名	解説
1	ChatGPT	22年11月の公開直後から爆発的にユーザー数を増やしたChatGPT。文書作成から英語学習、法律相談まで、生成AIによって生まれた新市場が急拡大した。
2	chocoZAP	圧倒的な安さと、外履きのままでOKなどの気軽さで、ジムに行くハードルを極限まで下げた。開始1年2カ月で1000店舗、会員数約84万人に到達。
3	THE FIRST SLAM DUNK	名作スポーツ漫画を3DCGで描き、リアルな試合さながらの映像が、原作を知らない層からも支持された。興行収入は157億円を突破。23年の映画興収ランキングトップに立った。
4	ゼルダの伝説 ティアーズ オブ ザ キングダム	ヒットした前作にアイテムづくりなどの新要素を加え、23年6月末までに国内326万本を販売。初速はシリーズ最高記録を樹立した。
5	ビオレ UV 瞬感ミストUV	塗り直ししやすいスプレータイプの日焼け止めが、記録的な猛暑を追い風に快進撃。累計出荷数は660万本を超えた。

(出展：日経トレンドィ 臨時増刊号より)

(3) 2023年日経MJヒット番付

～日経MJによる2023年ヒット商品番付～

番付	東		番付	西	
	商品名	寸評		商品名	寸評
横綱	生成AI	文章、画像、音声などを生み出すAIを使った商品が広がる。	横綱	大谷翔平&WBC	14年ぶりWBC優勝の立役者。
大関	藤井八冠	21歳で史上初の偉業。本やゲームなどの経済効果は35億円。	大関	アレのアレ (阪神38年ぶり日本一)	岡田監督がアレと表現した優勝に関西は熱狂。
関脇	YOASOBI 「アイドル」	アニメ「【推しの子】」主題歌。	関脇	ゼルダの伝説 ティアーズオブザキングダム	巨大な世界を探索するNintendoSwitch用ゲーム。
小結	ChocoZAP	1年強で会員数100万人越え、日本一になった低価格ジム。	小結	日本バス旋風	W杯で男子日本代表が五輪出場権獲得。

(出展：日経MJ 2023年12月6日号より)

